開発基盤部会 2022

OSS Consortium

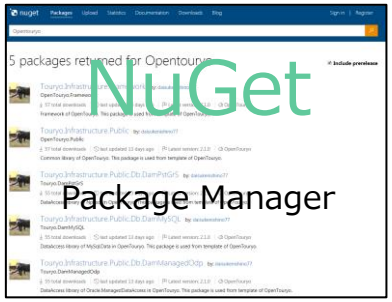
リーダー　西野大介

活動目的

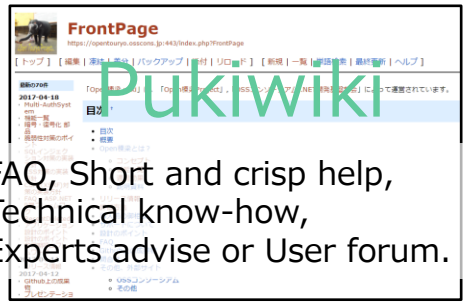
OSS Consortium

新たなベネフィット創出のポイントを探究し、
既存のスキーム（エコシステム）上でアウトプット

Version control
repository hosting
services on internet.



Package Manager



FAQ, Short and crisp help,
Technical know-how,
Experts advise or User forum.

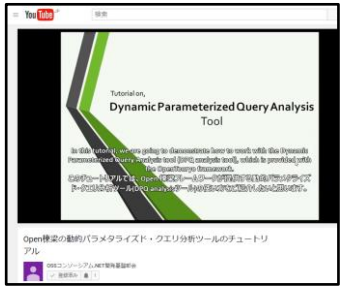
Coding Guidelines,
Contributing Process,
List of Contributors.

Issue tracking
Tutorial

Slides
Roadmaps

Online & Video content,
Demos, Easy set-up.

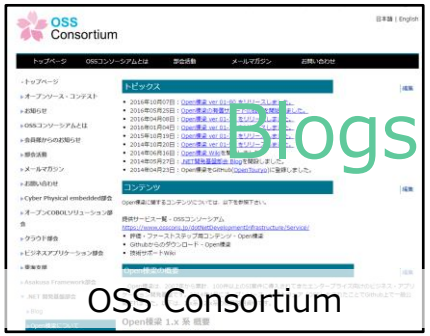
Youtube



Video hosting services

Google Groups

Online support



OSS Consortium

コンセプト

OSS Consortium

＜三方よし＞

何をしたら、ステークホルダーは　ハッピーなんだろうか？と常々、考える。

＜ラーメン＞

日本のラーメンは美味しいよね！：オープンな技術で野良でフラフラしてるのはラーメンだと思う（≒ クローズドで襟を正してやってる気になっていると、ロクなものが出来ない）。

＜逆問題＞

データ・サイエンティストには「その大本営発表、間違ってませんか？」と主張できる人が多い。フェイクニュースも増えてきており、逆問題処理が重要な時代になった。

逆問題とは？

コレまでも意識せず行ってきた分析。

② 分析
モデル構築

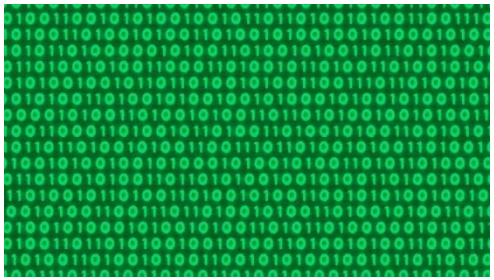
＜順問題＞

- KKD（勘・経験・度胸
- 統計解析 ＞ 推測統計
- 数理モデル（推定
- AIのモデル（推定

＜逆問題＞

- KKD（勘・経験・度胸
- 統計解析 ＞ 記述統計
- AIのアルゴリズム（学習

③ 推定



① データ

実績と計画 (1)

OSS Consortium

14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
V1		V2					V3		
オープンソース化に伴い、 .NET開発基盤部会を設立	各種 機能の強化 ≒ 停滞期（SIサポートの限界）.	サービス開発の スタートアップを試行	サービス開発基盤として、 汎用認証サイトをリリース	部会名称変更 → 開発基盤部会 （.NET Standard, Core, JS, Linux 対応）	.NET Core 3.0 対応 汎用モバイルバックエンド開発	.NET 5 対応、コンテナ技術応用 データパイプライン周辺技術リサーチ	データパイプライン各層のテンプレート化 既存プロダクトの継続エンハンス	データサイエンス分野への進出 既存プロダクトの継続エンハンス	？？？

実績と計画 (2)

OSS Consortium

① v 1.0系 (2007-2016)

高い品質・信頼性、生産性、柔軟性（QCDF）を実現する、エンタープライズ・システム向けの開発基盤を提供。

② v 2.0系 (2017-2019)

サービス開発：OpenID系認証, JavaScriptフロントエンド、ASP.NET Coreバックエンド技術で、Cloud & Mobileアプリ開発などのサービス開発のニーズを満たす。

③ v 3.0系 (2020-202x) <- こちらにシフト済

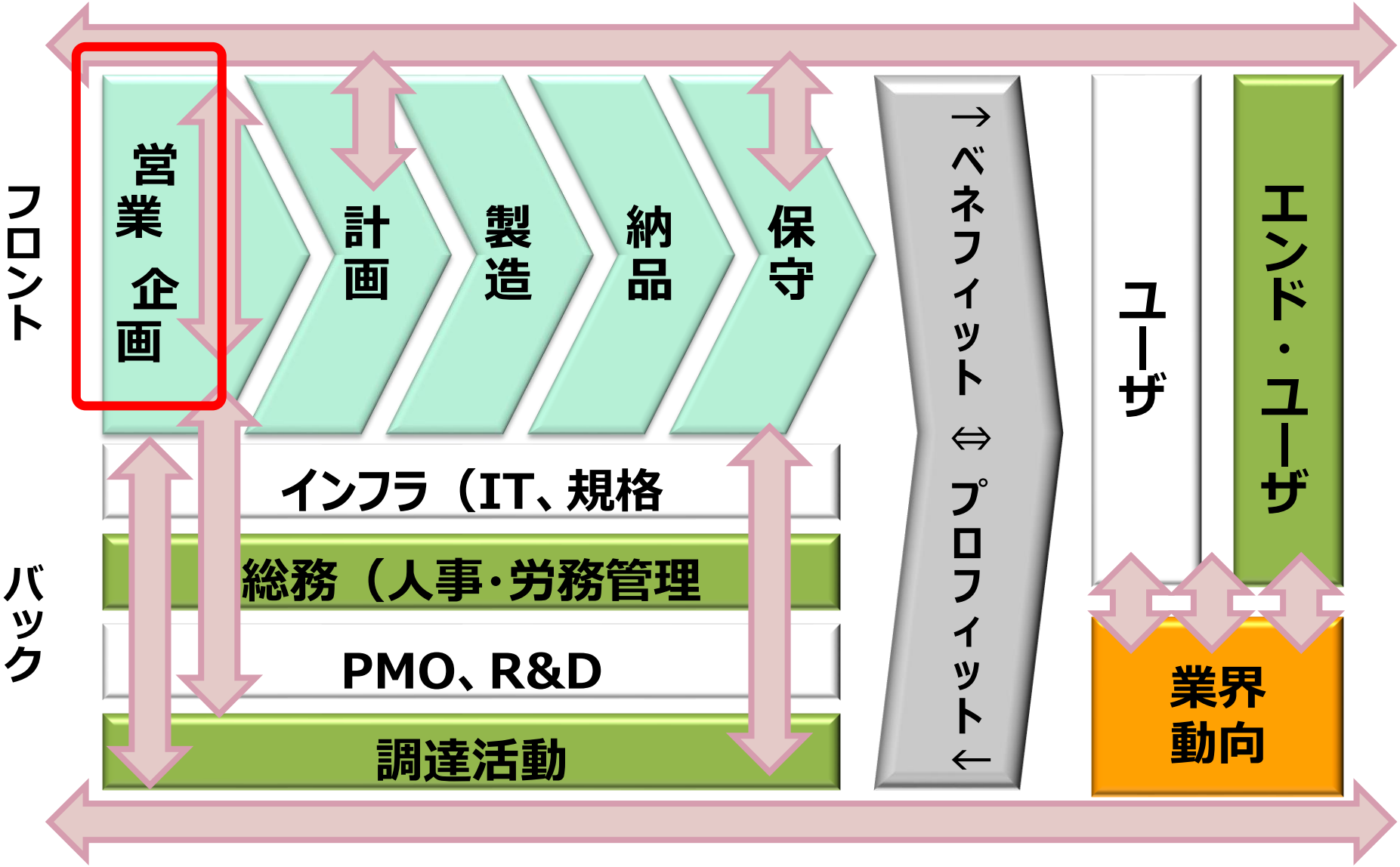
Linux、DevOps、データサイエンス等々：

逆問題処理の結果から、「大量生産(QCD)」 や 「PF担ぐ系のタイムマシン経営」の次フェーズへのシフトが重要と判断している。新たなベネフィット創出を探究、創出ポイントを発見し、その土台を固める（データ活用についての造詣を深める必要がある）。

2022年度 テーマ（1）

OSS Consortium

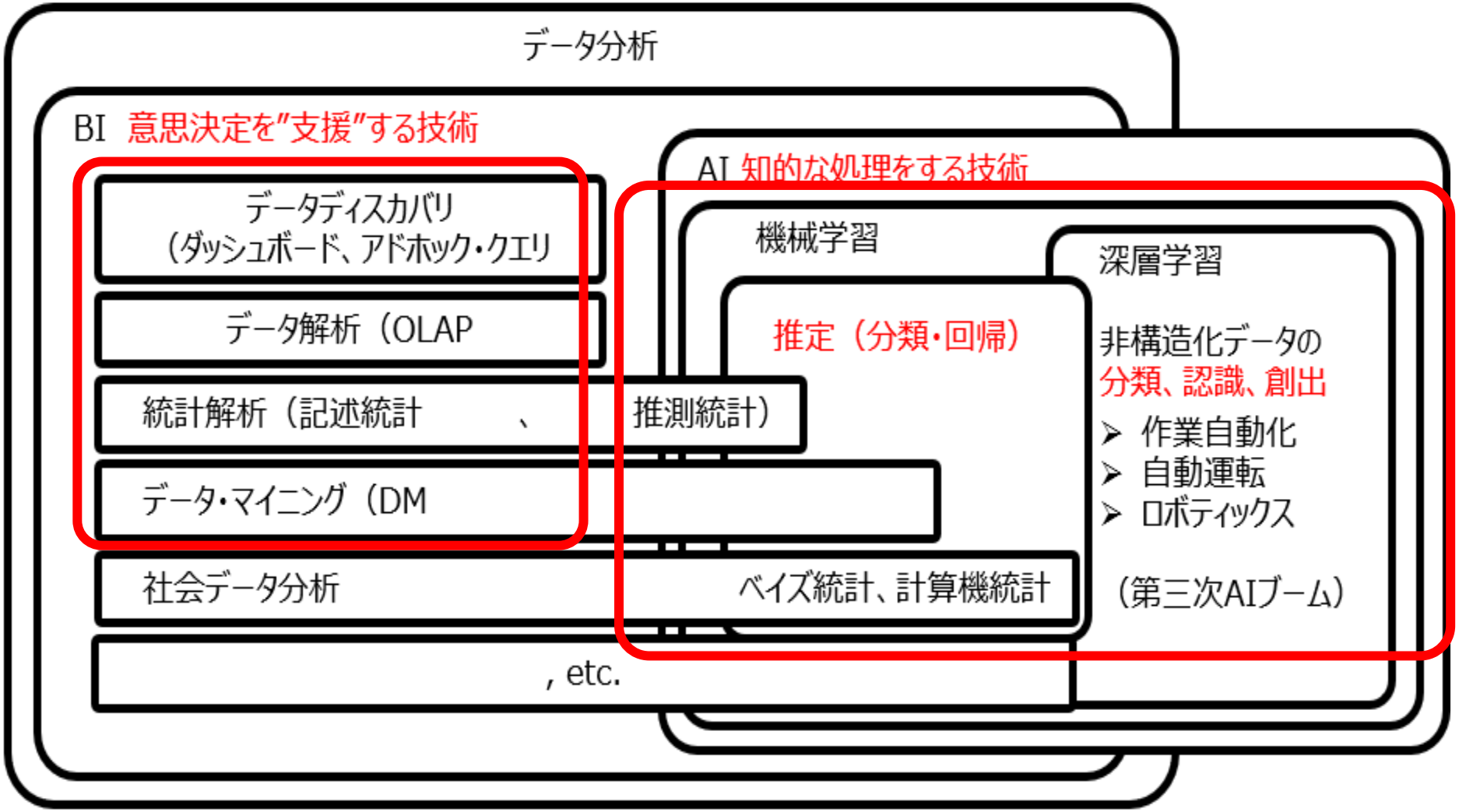
情報のサプライチェーン（SIer ver）と意思決定



2022年度 テーマ（2）

OSS Consortium

意思決定に関して、決定的なモノは無さそう。



余談

OSS Consortium

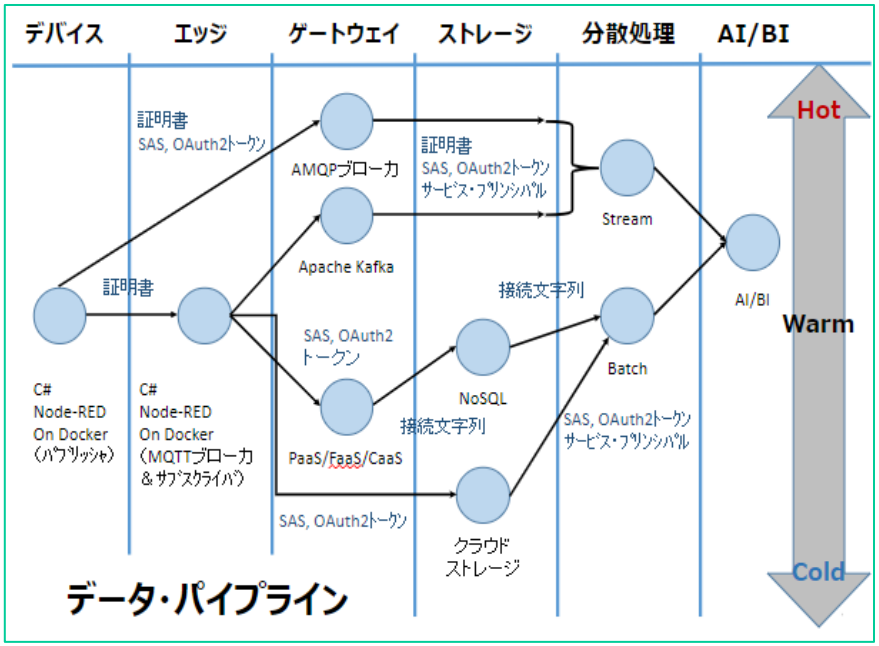
決定的なモノなんて無いとは言うが…、

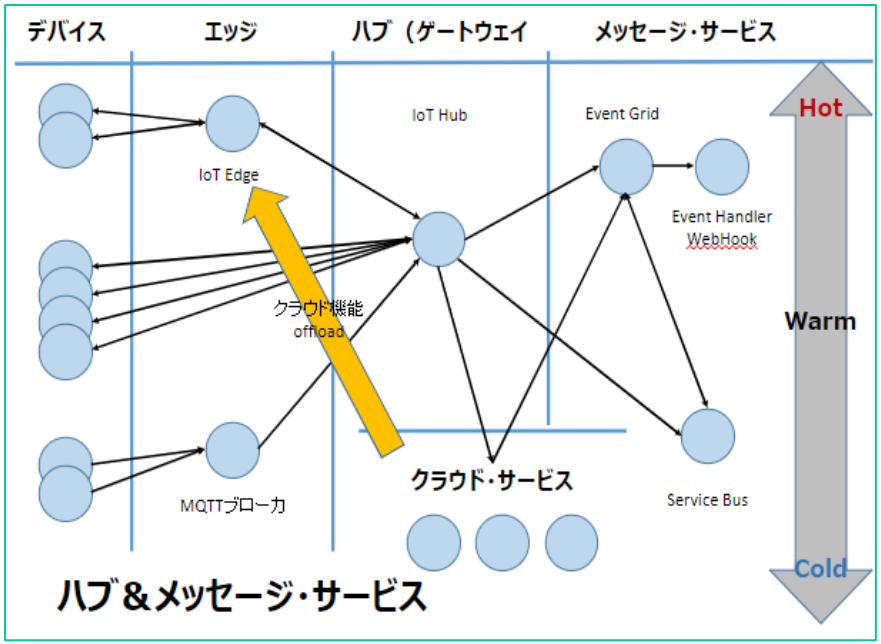
- …とは言え、「機械翻訳、OCR（文字起こし）音声翻訳」で、情報収集の範囲が大幅に広がった。
- 集めた活字情報の妥当性を、「直感」意外の方法で検証可能にしたい。（可視化レベルがまだ強力なのかも？）
- 某シンクタンクのアナリストの発言（≒ 人間の能力）「逆に言うとですね、私から見て、なんで解んないのか？が私には不思議ですね。私、Twitterなんかでニュースを全部、並べますでしょ？一読すれば解りますよねぇ？」（膨大な前提知識に支えられている：歴史、経済、数学、人間学
- ニュース（情報）をフィルタ、学習 → 推論、妥当性の可視化（可視化による正当性の獲得）

2022年度 テーマ（3）

OSS Consortium

AIの民主化（ 各種データサイエンス系アーキテクチャのテンプレート化





- 現リポジトリはDocker、IaCばかりで、
  従来型のテンプレート＆ライブラリは無い。
- Kaggleなどのデータセット・サイトを活用し
  Notebook、KNIMEなどでデータ分析。
- Notebookで分析ノウハウをGitHubに格納するなど？

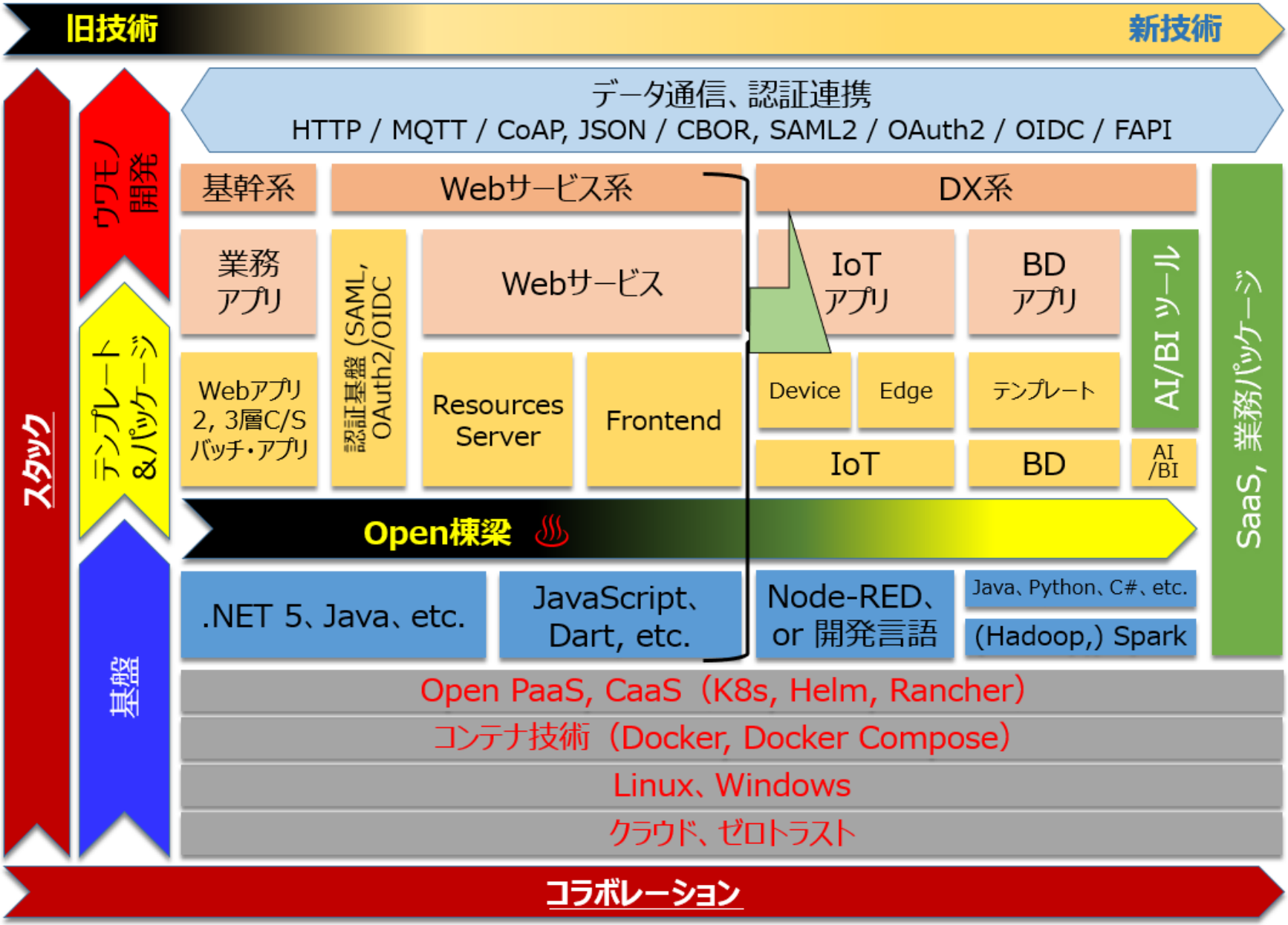
2022年度 テーマ（４）

OSS Consortium

既存プロダクトの継続エンハンス

- Ｖ１：継続的バージョンアップ
  PMISで290件の利用実績。社外の新規利用もあり。
  …ただし、メンテナンス・フェーズのため、注力しない。
  - .NET 6, 7, 8 …対応
  - Log ライブラリ差替
- Ｖ２：認証オプションの追加
  継続的にウォッチして、必要に応じて対応。
  - OktaとSAML連携
  - API Gatewayとの連携
- Ｖ３：データサイエンス系のサポート追加
  – 詳細については要検討（前項参照）–

スタック ＆ コラボレーション（少々、古い



お待ちしております。

OSS Consortium

お気軽に
ご参加下さい。

開発基盤部会 - OSSコンソーシアム
https://www.osscons.jp/dotNetDevelopmentInfrastructure/